



GMO グローバルサイン・ホールディングス株式会社

2026 年 12 月期 第 1 四半期決算説明会

2026 年 5 月 14 日

イベント概要

[企業名] GMO グローバルサイン・ホールディングス株式会社

[企業 ID] 3788

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2026 年 12 月期 第 1 四半期決算説明会

[決算期] 2026 年度 第 1 四半期

[日程] 2026 年 5 月 14 日

[ページ数] 29

[時間] 17:15 – 17:51
(合計：36 分、登壇：26 分、質疑応答：10 分)

[開催場所] インターネット配信

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 2 名
代表取締役 社長執行役員 青山 満 (以下、青山)
常務執行役員 DX 事業担当 武信 浩史 (以下、武信)

登壇

司会：本日はお忙しい中、GMO グローバルサイン・ホールディングス、2026 年第 1 四半期決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の説明会は、代表取締役、青山満よりご説明させていただきます。

説明終了後、質疑応答の時間を設けております。

それでは、これより開始いたします。青山社長、お願いします。

青山：皆様こんにちは。GMO グローバルサイン・ホールディングス、代表取締役社長の青山でございます。本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

それではただいまより、2026 年 12 月期第 1 四半期決算についてご説明申し上げます。どうぞよろしくお願いたします。

本日は、まず全体のサマリーをご説明いたします。続いて 4 月に連結企業集団に加わりました、GMO AI コネクト株式会社についてご報告いたします。その後、第 1 四半期の決算内容についてご説明し、最後に当社の重点サービスである GMO トラスト・ログイン、電子印鑑 GMO サイン、そしてその他注力商材の詳細な状況について順にご説明してまいります。

エグゼクティブサマリー

業績

**前年同期比売上13.4%増・営業利益50.8%増、好調に推移。
重点商材は前期に引き続き高成長を維持**

事業

**規制強化の追い風を捉え、サプライチェーンや医療向け
認証プランを戦略的にリリース**

戦略

**GMO AIコネクト社がグループジョイン。旺盛なAI需要を
背景に、知見を結集した次世代サービスを目指す**

まず、第1四半期の全体サマリーをご覧ください。

一言で申し上げるなら、非常に力強いスタートを切ることができました。重点サービスを筆頭に主力事業の売上が好調に推移し、売上高、営業利益ともに前年同期を大きく上回る結果となりました。

特に、当社がこれまで注力してきたサービスがしっかりと業績に貢献し始めている点は、大きな成果であると考えております。

次に、事業面についてです。現在、サイバー攻撃の被害はますます深刻化しています。こうした中で、医療、製造、金融など社会インフラに関わる特定の業界では、システムのセキュリティ対策について国や業界団体が独自のルールや基準を定める動きが進んでいます。

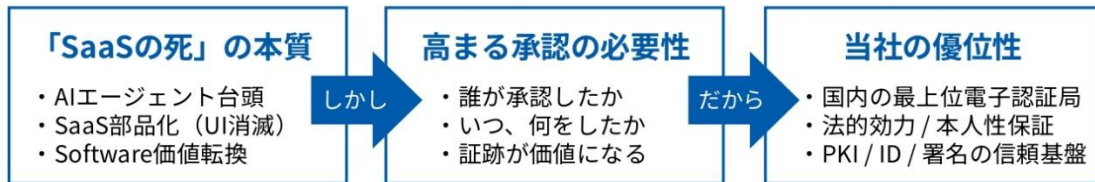
当社が提供する GMO トラスト・ログインは、こうした新しいルールにいち早く対応したプランを当四半期に提供開始いたしました。これは単なる機能の追加ではありません。社会全体でセキュリティの重要性が高まる中で、当社のサービスがより必要とされる領域に入り始めているということだと考えております。

そして、4月には当社は経営上、極めて重要な一步を踏み出しました。昨今の旺盛な AI 需要を背景に、AI と様々な業務システムをつなぐことを主力事業とする、GMO AI コネクト株式会社が当社連結企業集団に加わりました。これにより当社連結企業集団は AI 時代に必要不可欠となる、信頼のインフラを構築する体制をさらに強化することができました。AI が普及すればするほど、その裏側では誰が正しいのか、どのシステムが信頼できるのか、誰が承認したのか、こうした信頼の仕組みが必要になります。

まさに当社、連結企業集団の強みが、AI 時代において、より大きな価値を持つ局面に入ってきています。

AIが普及するほど、当社の存在価値は高まる

AIによる業務代替が進展 → 認証・署名の重要性アップ → 当社の追い風



AIエージェント時代には、**誰が本物かを証明する会社**が必要。
私たちは、その信頼インフラを提供提供することで更なる成長に繋がります。

4

GMOグローバルサインHD
#GlobalSign

私達にとってAIは、普及すればするほど、当社の存在価値が高まっていくものだと考えております。これは単なる期待ではありません。構造的な変化です。

現在AIは業務の効率化や調べものを手伝ってくれる存在として活用されています。しかし、今後AIはさらに進化し、人の代わりに様々な業務を実行する存在になっていきます。例えば、AIが請求書を作成する。AIが契約書を確認する。AIが社内システムにアクセスして必要な処理を行う。

こうした時代になると、非常に重要になるのが、そのAIは本当に正しい権限を持っているのか、誰の指示で動いているのか、実行された業務は正式に承認されたものなのか、ということです。

つまり、認証・署名、証跡の重要性がこれまで以上に高まっていきます。これは私達にとって非常に大きな追い風です。これからはAIエージェント、つまり自律的に判断し、仕事をこなすAIが当たり前になる時代が来ます。

そうになると、ソフトウェアの価値は人が使いやすいか、だけではなくなります。AIも含めて誰がいつ何をしたのか、その記録が確実に残っているか、その記録が法的にも信頼できるものか。こうした確かな証跡が企業活動の中で極めて重要になっていきます。

まるで契約書や領収書が取引の証拠になるように、AIの行動にも正式な記録が必要になります。そしてその記録を最も高い信頼性で提供できるのが私達GMOグローバルサイン・ホールディングスです。当社は国内の最上位の電子認証機関として、本人であること組織であることを公的に証明できる基盤を既に持っています。

AI時代に欠かせない、誰が本物かを証明するインフラとして、AI需要を確実に取り込み、更なる成長につなげてまいります。

4月30日にグループジョイン、GMO AIコネクト株式会社のご紹介

GMO AI Connect

会社名	GMO AIコネクト株式会社
所在地	東京都渋谷区桜丘町26-1 セルリアンタワー10階
代表者	加藤 史恵
設立	2019年7月
パートナー数	28名（正社員）2026年4月
所属団体	MIJS、一般社団法人ソフトウェア協会
コーポレートサイト	https://ai-connect.gmo

事業内容

■ 連携プラットフォーム提供／個別連携開発

AI・データ連携を支える統合プラットフォーム「JOINT AI Flow byGMO」を基盤に、生成AI・SaaS・オンプレミスなどの業務システムを連携し、業務効率化やDX推進を支援します。

JOINT *AI* Flow by GMO

■ SaaS導入支援サービス

クラウド型ERP「Oracle NetSuite」を中心に、SaaSの導入を支援します。要件定義～稼働支援に加え、個別カスタマイズや保守まで一気通貫で伴走します。

ORACLE
NetSuite
Alliance Partner

GMOグローバルサイン+D
GlobalSign

6

ここからは、GMO AI コネクト株式会社、旧 株式会社ストラテジットの連結企業集団への参画について詳しくご説明いたします。

当社は4月30日に同社の株式を取得し、旧社名からGMO AI コネクト株式会社へと社名変更を行いました。そして、正式に当社連結企業集団の一員となりました。同社は、生成AIやSaaS、つまりインターネット経由で使うクラウド型のビジネスソフト、さらに社内サーバで動くシステムなど、企業の中にバラバラに存在している業務システムを横断的につなげるプラットフォームを提供しています。国内でも先進的な取り組みを行っている会社です。既にLINE WORKS、マネーフォワード、フリーといった国内を代表するSaaS企業への導入実績もございます。こうした実績は、同社の技術力と実用性を示すものです。

グループジョインの背景

1. 市場背景：AIエージェント時代、ガバナンス需要の高まり

- 生成AIは「質問に答えるツール」から「業務を自律遂行するAIスタッフ」へ。
- MCP（AIにデータを渡す規格）が業界標準として定着する中、社内システムとAIを安全にガバナンス統率を実現しながらつなぐ整備が企業のAI活用における最大の律速要因となっている

2. GMO AIコネクトについて：AIを安全につなぐ仕組み

- 116種類のAPIコネクターとMCPを組み合わせた企業向けAI接続基盤「JOINT AI Flow byGMO」を提供
- 主要AI（Anthropic・OpenAI・Google・Microsoft）の業界標準に即日対応済み
- 個別開発不要でノーコードによりAIと社内SaaSの接続・セキュリティ管理が一元完結

3. GMOグローバルサイン・ホールディングスのねらい

- 「統制（GMOトラスト・ログイン）→接続（JOINT AI Flow byGMO）→確定（電子印鑑GMOサイン/GlobalSign）」の3層構造でAI時代の信頼インフラを完成
- グループ既存顧客へのクロスセルによるARR拡大と2027～28年の単月黒字化を見込む

7

GMOグローバルサインHD
GlobalSign

では、なぜ今、GMO AI コネクト社を連結企業集団に迎えたのか。その背景をご説明いたします。

現在、生成 AI を取り巻く環境は大きな転換点を迎えています。これまでの AI は、質問に答えてくれるツールという位置付けが中心でした。しかし、これからの AI は自ら判断し、業務をこなす AI スタッフつまり AI エージェントへと進化していきます。企業における AI 活用の質が根本から変わろうとしているのです。一方で、企業が AI を本格活用しようとする、大きな課題があります。

それが、社内システムとの連携におけるセキュリティとガバナンスです。つまり、不正アクセスをどう防ぐのか、誰が、何を、いつ実行したのかをどう管理するのか。ここが、企業の AI 活用における最大の壁になっています。この課題を解決するのが、GMO AI コネクト社が提供する、JOINT AI Flow byGMO です。

このサービスは 116 種類もの業務システムとつながる API コネクターと、業界標準の接続規格である MCP を組み合わせた企業向けの AI 接続基盤です。プログラミング不要のノーコードで ChatGPT や Claude といった主要な AI と社内の業務ソフトを安全につなぎ、一元管理することが可能になります。

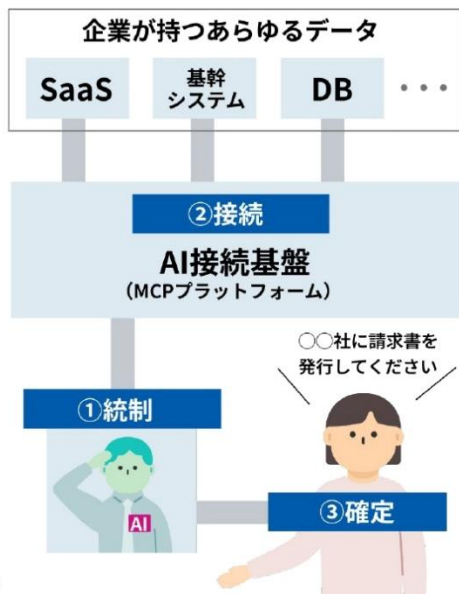
今回の連結企業集団への参画により、私達は AI 時代の信頼インフラを、より強固に完成させていきます。まず、GMO トラスト・ログインで誰が何をしてよいかを管理統制します。次に、JOINT AI Flow で AI と社内システムを安全に接続します。そして最後に、電子印鑑 GMO サインや

GlobalSign で、AI が行った結果を法的に確定させます。この統制、接続、確定という 3 層構造は、当社連結企業集団だからこそ実現できるものです。

収益面では、当社連結企業集団の既存顧客に対して、追加提案、つまりクロスセルを進めてまいります。これにより ARR、つまり年間で積み上がっていくサブスクリプション型収益の更なる拡大を目指します。

GMO AI コネクト社については、2027 年から 2028 年にかけての月次黒字化を視野に入れ、事業成長を加速させてまいります。

AIスタッフ (AIエージェント) が安全に自走できる次世代環境の提供



①統制：権限管理・アクセス記録

GMOトラストログイン

- どのAIが・誰の指示で・何を操作したかを一元記録・制御
- 操作ログはJ-SOX対応の証跡として直接活用可能

②接続：AIと企業データをつなぐ

JOINT Ai Flow
by GMO

- SaaS・基幹システム・社内DBへの接続を1基盤に集約
- MCP対応済みで、今日からAIが116のシステムを操作可能

③確定：AIが行った業務を承認

電子印鑑なら
GMOサイン GlobalSign
by GMO

- AIが実行した業務に電子署名で法的効力を付与
- 認定認証局として、AIの判断・承認を公的記録として確定

GMOグローバルサインHD
#globalSign

ここでは、AI エージェントが企業の中で安全に業務を行う次世代の環境について、ご説明いたします。

自ら業務をこなす AI エージェントが、企業のデータやシステムを使って安全に自走するためには、三つのステップが必要です。それが統制、接続、確定です。

第 1 に、ガバナンス、つまり統制です。どの AI が、誰の指示で、どのシステムを操作したのか。これを全て記録し、管理します。この操作ログは、上場企業に義務付けられている内部統制の監査、いわゆる J-SOX 対応の証跡としても活用できるほど厳格なものを想定しています。

第 2 に、AI と社内データをつなぐ接続基盤です。SaaS、基幹システム、データベースなど、企業内に存在する様々なシステムへの接続を一つの基盤に集約します。既に 116 のシステムに対応し

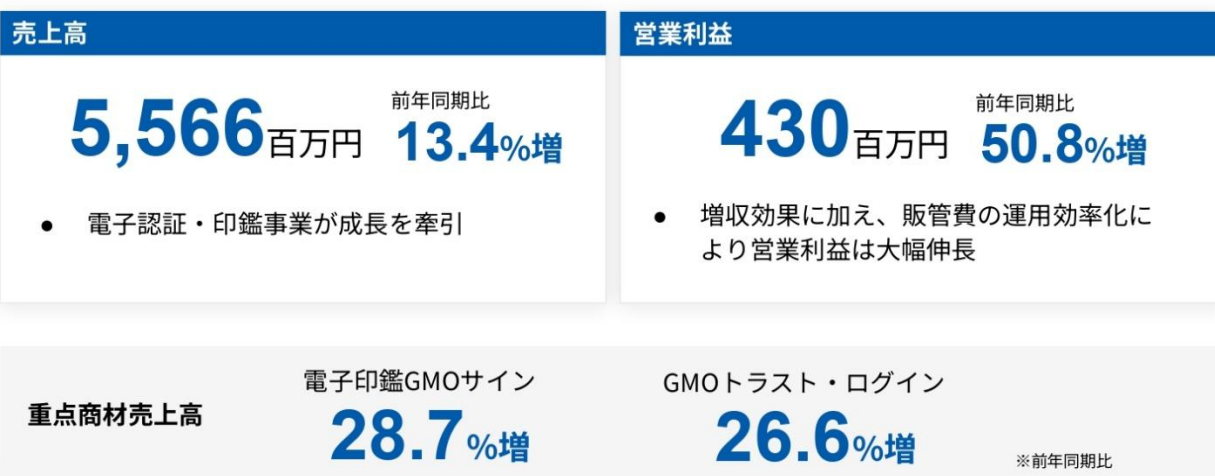
ており、例えば AI に、請求書を発行して、と指示すれば、その業務を実行させることが可能になります。

そして第 3 に、AI が行った業務の確定です。AI が実行した業務に対して、GlobalSign の電子署名で法的効力を付与します。電子認証局として、AI による判断や承認を公的な記録としてしっかり確定させていきます。

入口の権限管理から実際の接続、そして最後の法的担保まで。これを一貫して提供できることが、これからの GMO グローバルサイン・ホールディングスの大きな強みになります。

2026年第1四半期決算ハイライト

売上高・営業利益ともに増収増益 重点商材は前期に引き続き高成長を維持



10

GMOグローバルサインHD
#GlobalSign

それではここからは、第 1 四半期決算の概要についてご説明いたします。

こちらが第 1 四半期の決算ハイライトです。

売上高・営業利益ともに前年同期を大きく上回りました。特に営業利益については、前年同期比で 50%以上の大幅な増益を達成しております。これは前期に引き続き、電子認証・印鑑事業全般が堅調に成長したことに加え、CloudCREW byGMO の月額年額課金型、いわゆるストック型売上が順調に積み上がった結果です。

地に足のついた継続性のある成長ができていると考えております。

2026年第1四半期決算サマリー（累計比較）

売上・利益

(百万円)	2025年Q1実績	2026年Q1実績	前年同期比	2026年通期予想	進捗率
売上高	4,909	5,566	+13.4%	22,286	25.0%
営業利益	285	430	+50.8%	1,622	26.5%
経常利益	283	462	+62.9%	1,589	29.1%
親会社株式に帰属する 当期純利益	202	347	+71.7%	1,052	33.0%
EBITDA※	707	887	+25.4%	-	-

※EBITDA：営業利益と減価償却費の合計値。前期までは原価の減価償却費を含みます。今期より原価の減価償却費を含めているためQ1実績値も修正しています。

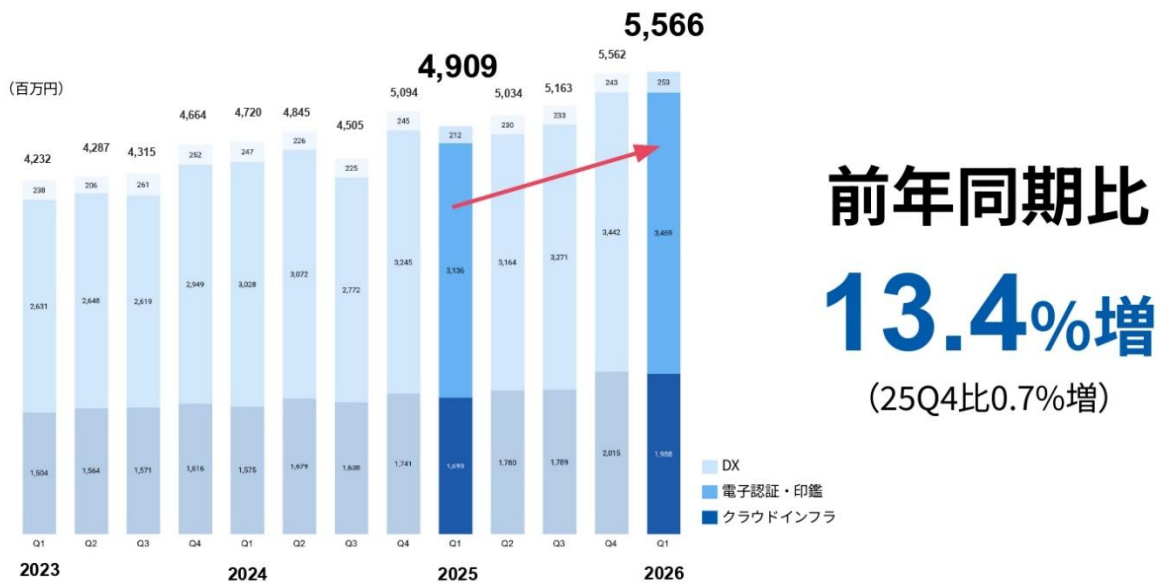
11

GMOグローバルサインHD
GlobalSign

具体的な数字をご覧ください。

第1四半期の連結業績は、売上高が55億6,600万円、営業利益は4億3,000万円となりました。前年同期比で大きく伸長し、また、通期計画に対する進捗率も順調です。年間目標の達成に向けて、非常に好調なスタートを切ることができたと考えております。

四半期売上高推移



13

GMOグローバルサインHD
GlobalSign

こちらは四半期ごとの売上推移です。

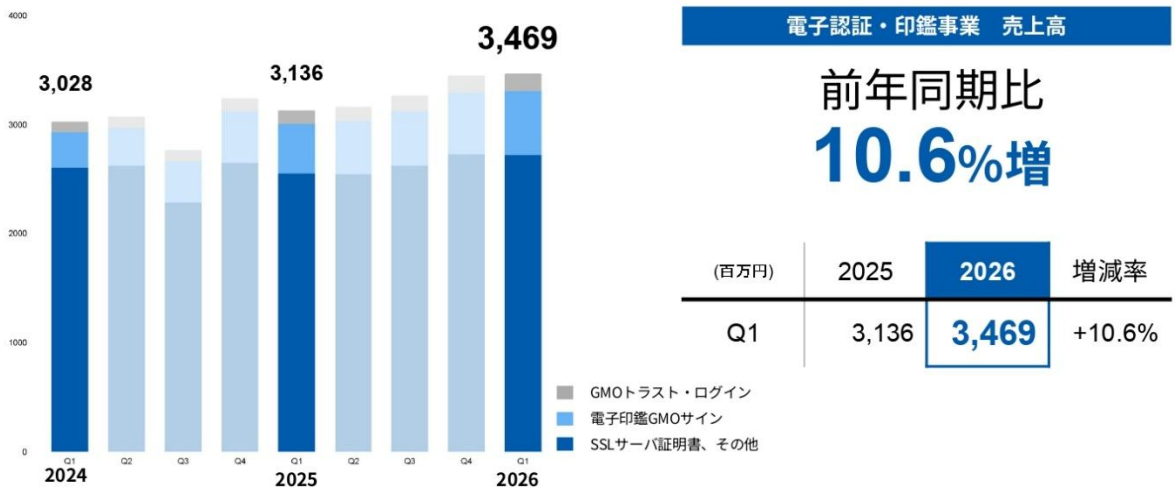
全ての事業セグメントで前年同期比 10%以上の増加となりました。全体では前年同期比 13.4%の増加です。

特定の事業だけが伸びているのではなく、電子認証・印鑑、クラウドインフラ、DX それぞれの事業がバランスよく成長しています。この点は、当社の事業ポートフォリオの安定性を示すものでもあります。

セグメント別 | 電子認証・印鑑事業 | 商材別四半期売上高推移

重点商材（電子契約、ログイン認証強化サービス）が順調に成長

(百万円)



14

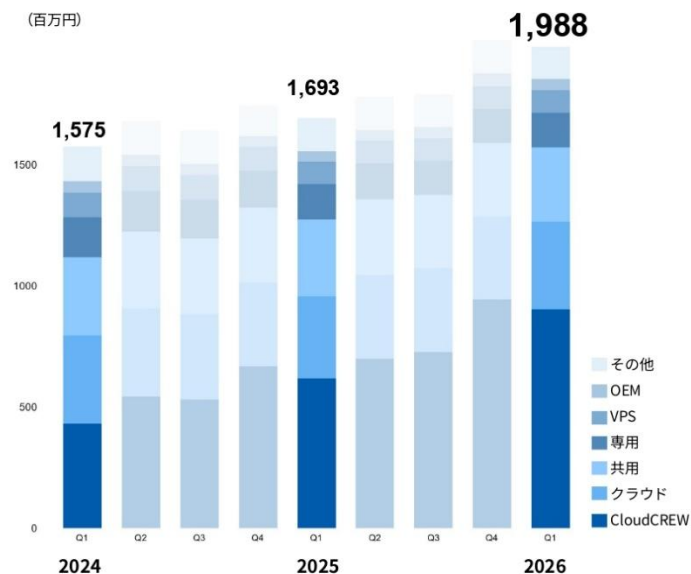
GMOグローバルサイン+HD
GlobalSign

ここからは、セグメント別の状況をご説明いたします。

まず、電子認証・印鑑事業です。この事業は当社の中核事業です。同セグメントでは、重点サービスである電子印鑑 GMO サイン、GMO トラスト・ログインが順調に売上を伸ばしました。また、SSL サーバ証明書、つまりウェブサイトの通信を暗号化するセキュリティ証明書もグローバルで堅調に拡大いたしました。

その結果、電子認証・印鑑事業の売上高は、前年同期比 10.6%増の 34 億 6,900 万円となりました。

マネージドサービスの需要増加で「CloudCREW byGMO」が高成長



クラウドインフラ事業 売上高

前年同期比
17.4%増

(百万円)	2025	2026	増減率
Q1	1,693	1,988	+17.4%

※クラウドインフラ事業における2026年12月期通期計画の修正予定は現時点ではありません

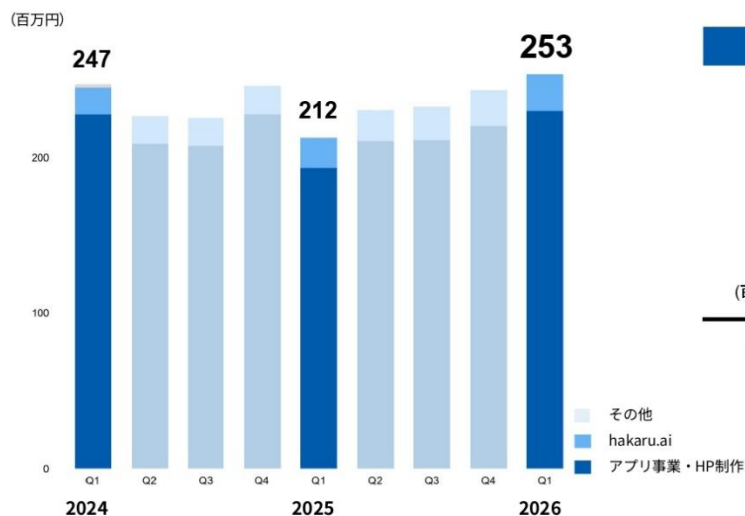
続いて、クラウドインフラ事業です。

当四半期の売上高は前年同期比 17.4%増の 19 億 8,800 万円となりました。堅実な成長を実現しております。

なお、通期のセグメント利益計画については、収支均衡、つまりプラス・マイナス・ゼロを見込んでおります。

第 2 四半期以降、一部サービスの整理統合や、契約形態の変更に伴う戦略的な一時的減益の影響が出る見込みです。これは単なる減益ではありません。コスト削減と体制の効率化を目的とした計画的な対応です。短期的には一時的な影響が出ますが、中長期では収益改善につなげていく方針です。

自治体や事業者が発行する紙の商品券をデジタル化するサービス「GMOデジタルPay」の需要増で売上好調



DX事業 売上高			
前年同期比			
19.2%増			
(百万円)	2025	2026	増減率
Q1	212	253	+19.2%

16

GMO グローバルサインHD
#GlobalSign

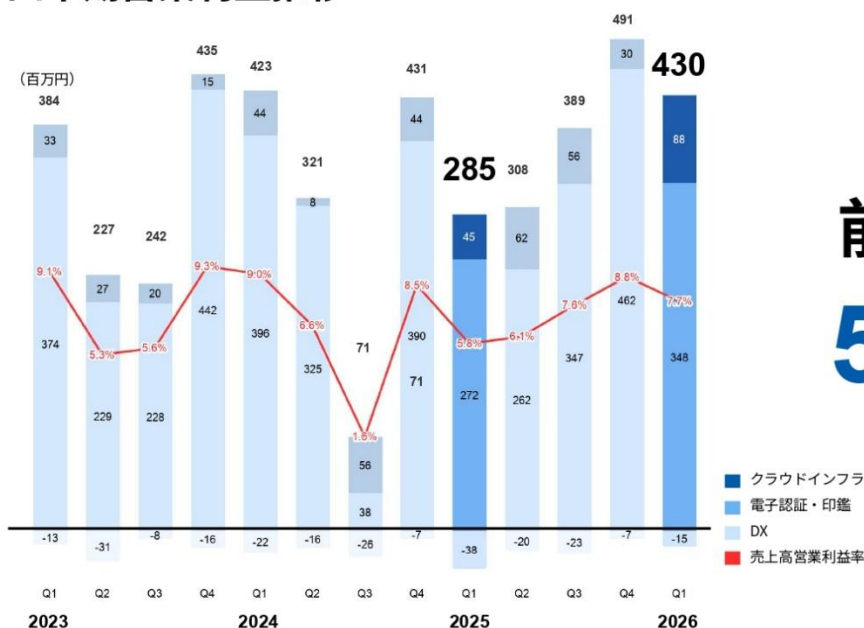
最後に、DX 事業です。

DX とはデジタルトランスフォーメーション、つまり企業や行政のデジタル化を支援する事業です。

当四半期の売上高は、前年同期比 19.2%増の 2 億 5,300 万円となりました。hakaru.ai byGMO が順調に成長していることに加え、紙の商品券をデジタル化するサービス、GMO デジタル Pay が政府の物価高騰対策の補助金対象事業となったことも追い風となりました。

その結果、好調に受注を獲得することができました。行政のデジタル化という大きな流れの中で、当社の DX 事業にも確かな成長機会が広がっています。

四半期営業利益推移



前年同期比
50.8%増

17

GMOグローバルサイン+HD
GlobalSign

以上の事業進捗の結果、第1四半期の連結営業利益は、前年同期比50.8%増の4億3,000万円となりました。

売上の成長に加え、前期より進めてきた海外の開発拠点や人員配置の最適化といった構造改革の成果が、利益率の向上としてはっきりと表れております。売上を伸ばすだけでなく、利益を生み出す力も高まっている。これが今回の第1四半期決算における大きなポイントでございます。

電子認証・印鑑事業 | GlobalSign by GMO | トピックス

証明書管理を効率化する「TLC Connect byGMO」をリリース

TLS Connect byGMO

日本および北米、ヨーロッパ
など海外10拠点にて

提供開始

背景

- SSLサーバ証明書の有効期限が短縮化。2029年には47日間に。
- セキュリティ対策需要が高まる社会背景から国際的な機関にて決定事項。

リリース

- 証明書の期限切れによるWebサイトや業務システムの停止リスクを抑制
- SSLの検出、取得、更新、適用、管理を効率化・専門知識不要。

20

GMOグローバルサイン+HD
GlobalSign

次に、現在当社が注力している四つのサービスについて、詳しくご説明いたします。

まず、SSL サーバ証明書などを提供する電子認証事業についてです。

Web サイトのセキュリティ証明書である、SSL サーバ証明書は、現在業界全体で有効期間が短縮される流れにあります。有効期間が短くなるということは、企業にとって証明書の更新作業の頻度が増えるということです。そのため、証明書の管理をいかに効率化し、自動化するかが非常に重要になっています。

この課題に対応するため、当社は中堅・中小企業向けに、証明書の発行から更新までを自動で一元管理するサービス、TLS Connect byGMO の提供を開始いたしました。日本に加え、北米、ヨーロッパなど、海外 10 拠点でも提供を開始しております。

証明書の運用負荷を軽減するプラットフォームの提供は、今後ますます重要になります。当社は、この市場の変化をしっかりと捉え、企業のセキュリティ運用を支えてまいります。

電子認証・印鑑事業 | **GMO**トラスト・ログイン | トピックス

特定業界における認証強化の義務化・厳格化の流れが加速

トピック1

深刻化する医療機関へのサイバー脅威と法令による義務化に対応

背景

- 近年、医療機関を標的としたサイバー攻撃が深刻化
- 医療法に基づきサイバーセキュリティ対策が「遵守義務」

リリース

- 3/30 ガイドラインが求める高度な認証と持続的な安全を実現する医療特化型プランをリリース

トピック2

経産省の新評価制度（SCS）に対応 認証義務化対応プランを戦略投入

背景

- 社外ユーザーによる企業のポータルサイトや業務システムへアクセス増
- 取引先を踏み台とした侵入を防止

リリース

- 4/7 自社のみならず取引先・パートナー企業からのID利用を管理する「サプライチェーンIDプロテクト」をリリース

22

GMOグローバルサインHD
GlobalSign

続いて、ログイン認証強化サービス、GMO トラスト・ログインについてご説明いたします。

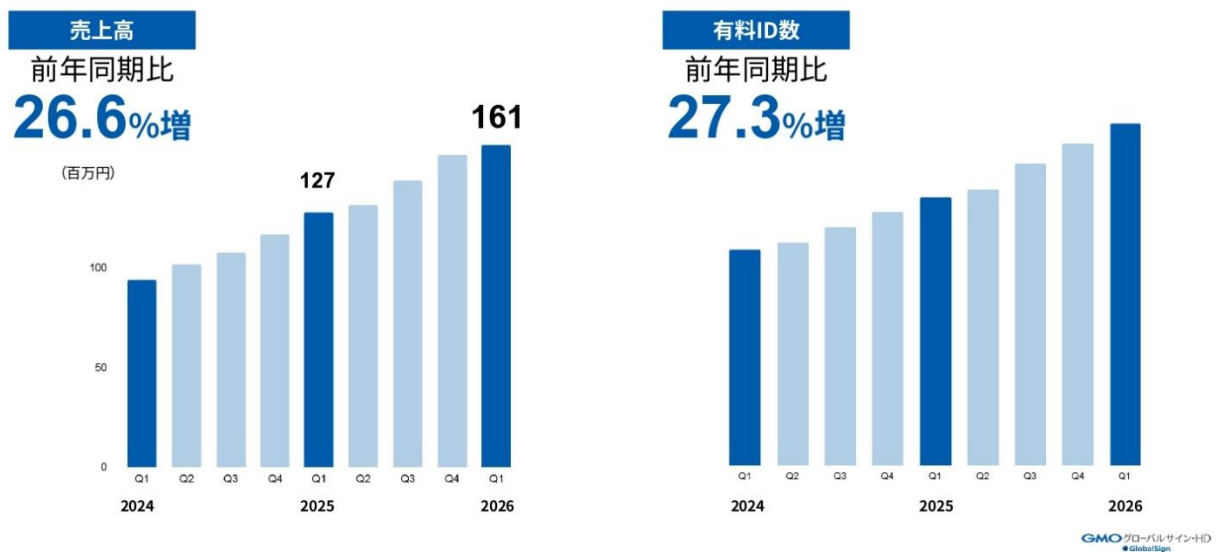
冒頭でも申し上げた通り、特定業界において、システムのセキュリティに関する固有のルールや評価制度が次々と策定されています。このような動きに対して、GMO トラスト・ログインでは、3月に医療機関向けのサイバーセキュリティ対策プランを提供開始しました。これは、病院など医療機関のログイン管理を強化するプランです。また、4月にはサプライチェーンのセキュリティ管理

を支援するプランを提供開始しました。サプライチェーンとは、仕入先や取引先を含む企業間のつながり全体を指します。

今後、企業は自社だけではなく、取引先も含めたセキュリティ管理が求められるようになります。当社は、こうした社会的な要請に応えるソリューションをいち早く展開してまいります。それにより市場シェアの拡大と持続的な成長を図ってまいります。

電子認証・印鑑事業 | **GMO**トラスト・ログイン | 四半期売上高・有料ID数推移

サポートオプション販売強化。単価アップ×契約数増加で増収



23

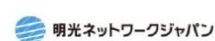
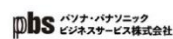
こちらは、GMO トラスト・ログインの売上高と有料利用者数の四半期推移です。

当四半期の売上は1億6,100万円となりました。前年同期比では26.6%増加です。特に、連結企業集団のシナジーを生かした大規模導入、そしてパートナー企業を経由した、社会インフラを担う大企業への導入が売上増加に寄与いたしました。

ログイン認証の重要性は今後、ますます高まっています。その中で、GMO トラスト・ログインは着実に存在感を高めています。

電子認証・印鑑事業 | **GMO**トラスト・ログイン | 契約企業 (一部抜粋)

大企業から数十人規模まで、導入いただいています。



GMO グローバルサイン+HD
#GlobalSign

24

このような結果、大企業での導入も拡大しています。

当四半期においても、国内でサーティワンアイスクリームを展開するバスキン・ロビンス様にご導入いただきました。特定業界向けの個別ソリューションに加え、SaaS 管理プランも競合との差別化につながっています。

SaaS 管理プランとは、社員が使っている複数の業務ソフトをまとめて管理する機能です。企業では、様々な SaaS が使われています。誰が、どのサービスを使っているのか、退職者のアカウントが残っていないか、不要な契約が放置されていないか。こうした管理はセキュリティ面でもコスト面でも非常に重要です。

GMO トラスト・ログインは、単なるログイン認証ツールから、企業全体の SaaS ガバナンス基盤へと進化しています。これにより、新規顧客の獲得、そして競合サービスからの乗り換えをさらに推進してまいります。

あらゆる文書に対応「eシール（電子社印）」提供開始

契約印タイプ	実印タイプ	NEW 組織印タイプ
メール認証で 本人性を担保	電子認証局が審査・ 発行した電子証明書で 本人性を担保	eシール用 電子証明書で 組織の正当性を担保
<ul style="list-style-type: none">・ 業務委託契約書・ 秘密保持契約（NDA） など	<ul style="list-style-type: none">・ 株式譲渡契約・ 金銭消費貸借契約 など	<ul style="list-style-type: none">・ 見積書、請求書・ IR／広報資料 など

利便性向上の一方で、発行元組織のなりすましや公式文書の改ざんといったデジタル詐欺が新たな社会課題。

あらゆる文書のデジタル化に。eシールとタイムスタンプで真正性を担保

続いて、電子契約サービス、電子印鑑 GMO サインについてご説明いたします。

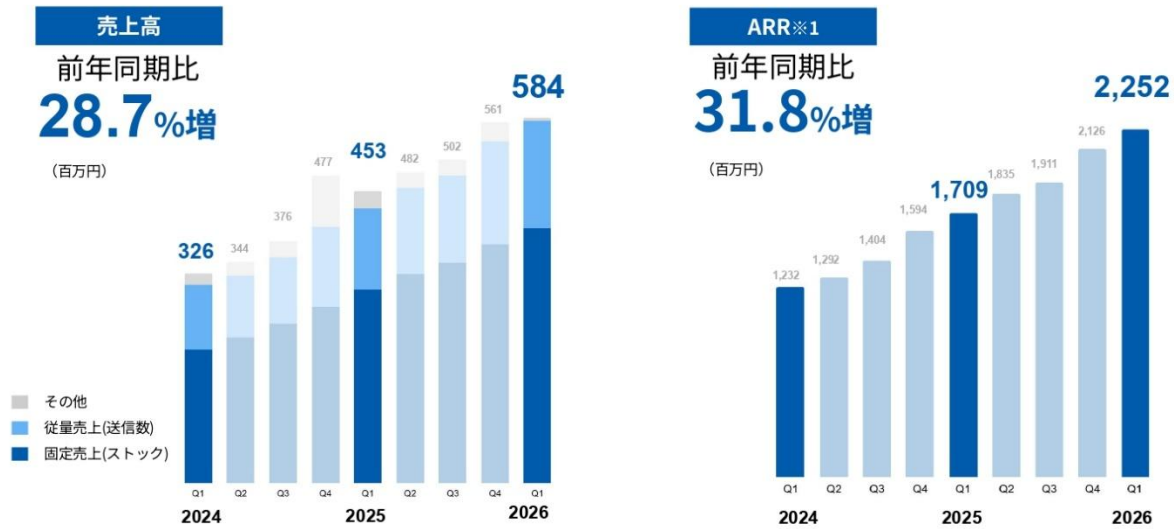
GMO サインでは、4月に企業や自治体などのなりすましや改ざんを防ぐeシール、いわゆる電子社印の提供を開始いたしました。eシールとは、個人のはんこや電子署名とは異なり、この文書は、確かにこの組織が発行したものと証明する仕組みです。いわば法人専用の電子スタンプです。

例えば、自治体が発行する証明書や企業が発行する請求書や通知書などにこのeシールを付けることで、文章の発行元が本物であることを証明できます。

こちらの背景として、3月に総務省がeシールに係る総務大臣認定制度の受付開始を発表しました。当社はこれを受け、即座にサービスをリリースいたしました。スピーディーに提供できた理由は、グローバルサインが既にEUにおいて、認定事業者として豊富な発行実績を持っているためです。海外で培った実績を国内市場にいち早く展開できること、これも当社連結企業集団の大きな強みです。

今後は、特に自治体でのeシール需要の増加が見込まれます。GMOサインには既に多くの自治体のお客様がいらっしゃいます。その基盤を生かし、eシールでの普及にも努めてまいります。なお総務大臣認定については、現在申請準備中でございます。

売上高、ARRともに高成長を継続。岩盤ストック収益の拡大



27 ※1 Annual Recurring Revenueの略称。各四半期の平均売上（一時収益を含まない）を12倍して算出。

GMO グローバルサインHD
#GlobeSign

こちらは GMO サインの売上高および ARR、つまり年間定期収益の四半期推移です。当四半期の売上は前年同期比 28.7%増の 5 億 8,400 万円となりました。ARR も 30%以上の成長を維持しております。

電子契約は、導入後も継続的に使われるサービスです。そのため、ARR の成長は、将来の安定した収益基盤の拡大を意味します。

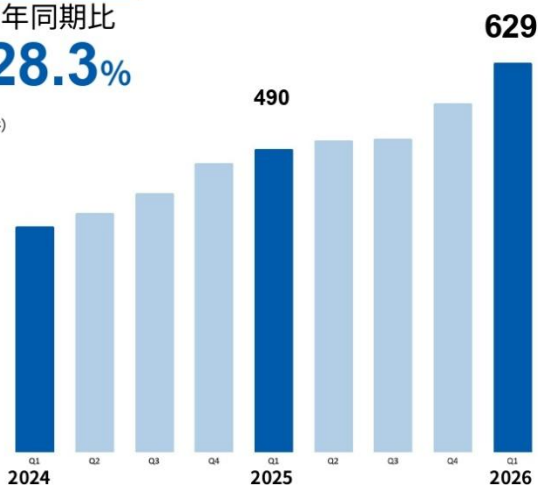
GMO サインは、売上成長とストック収益の積み上げがともに順調に進んでおります。

契約の送信数も堅調に増加。電子署名利用シーンも拡大

契約送信件数※2

前年同期比
+28.3%

(万件)



国内上場企業の
**約84%が
利用中**

累計 5,000 万件 送信達成
**契約
送信件数 No.1**

※ 電子署名法に基づく電子署名およびタイムスタンプが付与された契約の累計送信件数（タイムスタンプのみの契約を除く。主な立会人型電子署名サービスが対象）GMOリサーチ&AI株式会社調べ（2024年12月）
※2 四半期毎の契約送信件数を集計。2025年第1四半期における大量のテスト送信（無料）を除外して集計。
※3 2026年3月末時点「GMOサイン」利用企業数3,276社と2026年3月末時点日本証券取引所の公式サイトで公表中の上場企業数3,920社から算出

28

GMO グローバルサインHD
GlobalSign

当四半期の契約送信件数も、売上高に比例して大きく増加いたしました。

昨年秋に実施した料金プランの改定効果も、顧客1件当たりの単価増加として表れています。

そして、特にお伝えしたいのが、国内上場企業への普及です。1月末時点では国内上場企業の約80%にご利用いただいております。その後、わずか2カ月ほどで4ポイント増加し、現在では約84%の上場企業においてご利用いただいております。上場企業の約84%が使うサービス。これは非常に大きな市場地位であり、今後の成長に向けた強固な基盤です。

電子公印とセキュリティ認証で自治体導入数でも**No.1**を目指す



導入自治体（一部抜粋）

東京都 北海道 大阪府 群馬県 神奈川県 静岡県
滋賀県 岡山県 広島県 山口県 熊本県 大分県

取得済認証一覧

- ISO/IEC27001（情報セキュリティ）
- ISO/IEC27017（クラウドサービスセキュリティ）
- ISMAP登録
- SOC2 Type2保証報告書受領
- JIIMA認証

LGWAN（総合行政ネットワーク）対応

GMO グローバルサイン+HD
#GlobalSign

次に、自治体への導入状況です。

当四半期も、広島県や大分県を始めとする自治体に新たに導入いただきました。その結果、自治体への累計導入数は210件となりました。自治体においては、契約の電子化だけでなく、公文書の信頼性、発行元の証明、改ざん防止といったニーズが今後ますます高まっています。

当社は電子契約に加え、競合との差別化商材である電子公印、そして今回提供開始したeシールを組み合わせ、自治体のデジタル化を支援してまいります。

金融機関・不動産業界・小売業など多くの大手企業に導入



30

GMOグローバルサインHD
#GlobalSign

こちらは GMO サインを導入いただいている企業の一覧です。

有料契約を締結した企業のうち、掲載許可をいただいた企業のみを掲載しております。

金融機関、不動産業界、製造業、サービス業など、多種多様な業種規模の企業において、GMO サインをご利用いただいております。ご評価いただいている理由は、信頼性と使いやすさです。今後もお客様にご満足いただけるサービスを提供し、更なる市場拡大を目指してまいります。

大型案件獲得、高収益のマネージドサービス好調により増収増益



背景

- AI普及でデータ分析需要が急増
- 既存AWS環境へのAI活用ニーズが増加

リリース

- Amazon quick販売開始
- 要件ヒアリングから、Amazon Quick導入・セットアップ、その後のチューニングまでワンストップで対応

32

GMOグローバルサインHD
#GlobalSign

最後に、CloudCREW byGMO の状況についてご説明いたします。

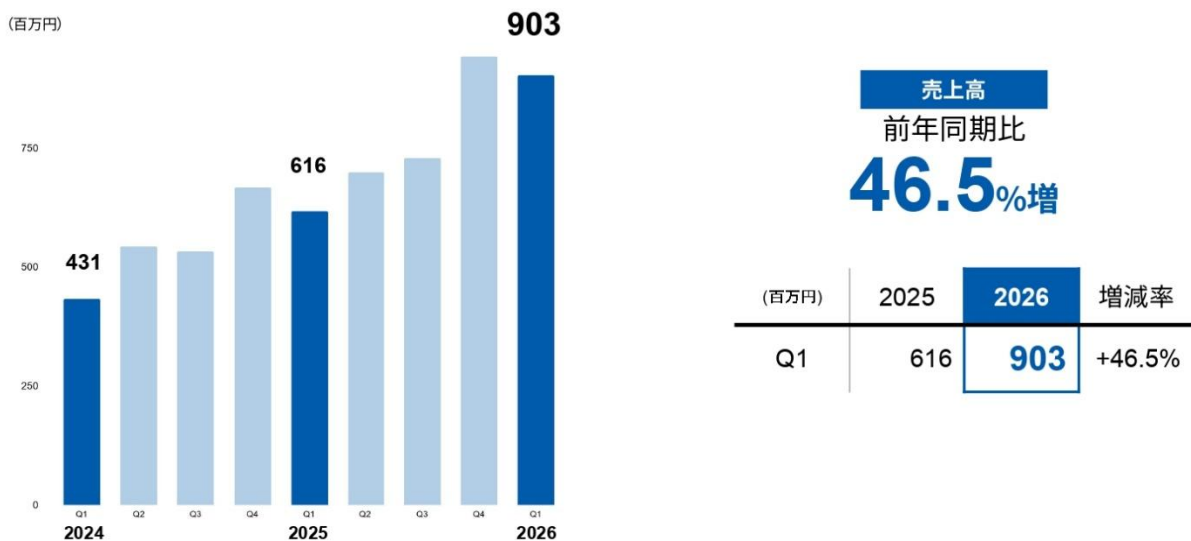
現在、AWS を活用している多くのお客様から、蓄積したデータを AI で活用したい、社内の AI 導入を急ぎたい、という切実なニーズをいただいております。AWS とは、Amazon が提供するクラウドサービスであり、企業がサーバやデータ管理基盤をインターネット経由で利用できるサービスです。

一方で、多くの企業にとって、AI 活用には大きな壁があります。それがセキュリティへの不安と専門人材の不足です。AI を使いたい、しかし、どのように安全に使えば良いのかわからない、社内に専門人材がない、データの扱いに不安がある。こうした課題を抱える企業は非常に多いのが実情です。

この市場ニーズに対応するため、当社は当四半期に Amazon Quick 利活用支援サービスをリリースいたしました。このサービスは、専門知識がなくても、普通の言葉で話しかけるだけで、複雑なデータ分析や業務自動化を一つのプラットフォームで完結できるサービスです。AI を活用したい企業に対して、導入から運用までを支援することで、CloudCREW の成長をさらに加速させてまいります。

クラウドインフラ事業 | CloudCREW byGMO | 四半期売上高推移

マネージドサービスの好調により、強い成長モメンタムを維持



33

GMOグローバルサインHD
#GlobalSign

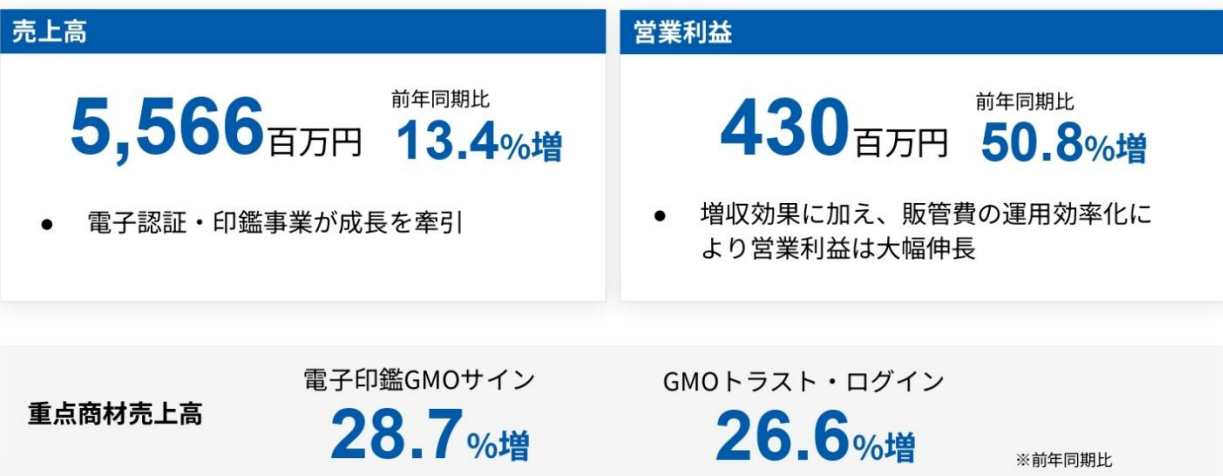
こちらは CloudCREW の売上推移です。

当四半期の売上高は、前年同期比 46.5%増の 9 億 300 万円となりました。大型案件の獲得に加え、利益率の高いマネージドサービスが非常に好調です。マネージドサービスとは、お客様の代わりにシステムの管理運用を丸ごと引き受けるサービスです。

クラウドを導入したい、しかし、自社だけでは設計や運用が難しい。そうしたお客様に対し、CloudCREW が導入支援、設計構築監視運用までを担います。このニーズは非常に高く、今後も着実な成長が期待できる領域です。人材採用も順調に進んでおり、今後更なる事業拡大を図ってまいります。

2026年第1四半期決算ハイライト

売上高・営業利益ともに増収増益 重点商材は前期に引き続き高成長を維持



34

GMOグローバルサイン+HD
GlobeSign

最後に、2026 年度第 1 四半期の決算を総括いたします。

まず、売上面では、電子認証・印鑑事業を筆頭に、全ての部門で増収となりました。連結売上高は前年同期比 13.4%増の 55 億 6,600 万円となりました。

連結営業利益については、GMO トラスト・ログイン並びに GMO サインの黒字化、さらに開発拠点および人員配置の最適化といった構造改革の成果が重なり、前年同期比 50.8%増の 4 億 3,000 万円となりました。重点商材である GMO トラスト・ログイン、そして GMO サインは、ともに売上が前年同期比で 30%近く増加しております。

当社の成長を支えるサービスが着実に力をつけていることを示す結果です。第 1 四半期は売上、利益、重点サービスの成長、いずれにおいても非常に好調なスタートとなりました。

2040年、信頼できる社会インフラ企業へ

Next 2040

信頼を設計し、世界をつなぐ。

Designing trust. Connecting the world.

私たちは、インターネットが信頼できる情報でつながり、透明性のある世界を目指しています。それは、見えない信頼を、確かな技術で「設計」し、誰もが安心して使える仕組みにすること。信頼に満ちた社会インフラの発展に貢献し、この領域で世界シェアNo.1に挑みます。

35

最後に、当社が目指す未来についてお話しします。

私達は 2040 年に向けて、あらゆるつながりに信頼が組み込まれる社会の実現を目指しています。ヒトとヒト、企業と企業、AI とヒト、モノとシステム。これからの社会では、あらゆるものがデジタルでつながっていきます。

そのときに最も重要になるのは、相手が本当に正しい相手なのか。その情報は本物なのか。その行動は正式に承認されたものなのか、つまり信頼です。

ヒトや企業、AI やモノが正しい相手かどうかを自動で判断しながら、安全につながれる社会。国境や業界を超えて共通のデジタル ID が整い、どこにいても誰とでも安全につながれる社会。AI やロボットも信頼できる存在として、人とともに社会を支えていく社会。そして、認証や証明は意識されないほど自然に生活やビジネスの中に溶け込んでいく。

そうした社会においては、企業にとって信頼の見える化こそが、新しい企業価値の基準になっていきます。当社のビジョンは、信頼を設計し、世界をつなぐことです。このビジョンの実現に向けて、私達は技術とサービスを通じて社会課題を解決し、信頼に満ちた社会インフラを構築してまいります。

そして、世界 No.1 の信頼インフラ企業を目指してまいります。

コトをITで変えていく。



36

GMO グローバルサイン・HD
GlobalSign

音声：コトを IT で変えていく。GMO グローバルサイン・ホールディングス

青山：以上をもちまして、2026 年 12 月期第 1 四半期決算についてのご説明を終了いたします。

「コトを IT で変えていく。」、GMO グローバルサイン・ホールディングスを引き続きよろしくお願いたします。

本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

司会 [M]：続きまして、質疑応答に移らせていただきます。

ウェビナーにご参加の皆様のご質問をお受けいたします。それでは質疑応答を開始いたします。

[Q]：2点お願いします。1点目が、ちょっとファーストクォーター、良すぎるんじゃないかなと思っています。ちょっとびっくりするぐらい良くてですね、正直、全事業、私の想定を超えております。考え直したんですが、今期下期って厳しいかなと思ひまして。例えばクラウドインフラの戦略コストが下期に出てくるとかですね。あと買収したものの、のれん償却とかも出てくるのかなと思っています。

というわけで下期、2億ぐらい例えば減益要因があるのであれば、1Q このぐらい好発進で、通期計画据え置きという算段なのかなとも思っています。

こういう、下期ちょっと厳しい要因が多いから1Q、元々このぐらいその値を含んだご想定だったのか。またはですね、本当に想定以上に上振れたというふうな着地なのか。ちょっとこの辺りご説明ください。1点目です。

青山 [A]：ありがとうございます。第1クォーターに関しては、私どもの計画より大きく上回って着地しています。というのは、私どもの注力商材のうちの、GMOサインが特に堅調に推移したこと。それから、ClowdCREWも想定より受注が好調であったと。この2点によって非常に良い数値となっております。

ですので、特に通期で言いますと、当初より計画しておりますクラウドインフラ事業の一部のサービス停止とかありますけれども、それも特段、下期ドンと来るということはあまり考えておりませんので、引き続き好調に売上が推移できると考えています。

[Q]：すみませんフォローアップなんですが、元々旧株式会社ストラテジットの買収は多分考慮に入れておられなかったんで、会社計画の下振れ要素なのかなと思っていました。ただ、この1Qの上振れの貯金を考えれば、その下振れを補っても会社計画の営業利益達成の確度が上がったというぐらいの理解でいいのでしょうか。

青山 [A]：はい、その通りです。

[Q]：ありがとうございます。ちょっとしつこくて恐縮です。1Qは全セグメント想定より良かったと見ていいのでしょうか。また、営業利益でどのぐらい良かったイメージなのでしょうか。

青山 [A]：そうですね。基本、全セグメントで良かったですけども。GMO サインの新規の受注が非常に好調であるということは大きいと思います。それから、どれくらい上回ったかというのは、ちょっとこれは開示しておりませんので、ちょっと説明しづらいですけども。そうですね、想定より 15%くらい良かったという感じですね。

[Q]：ありがとうございます。安心いたしました。2 問目が、長期見通しみたいな話でございます。電子契約、トラスト・ログインですね。あと ClowdCREW でも良かったということなんですけれども、これは継続性があるのでしょうか。

また、電子契約が好調とか、こういった背景にある顧客需要は、一体何から来ていると思われませんか。

青山 [A]：はい。電子契約が好調な理由はもう本当に中小企業に至るまで、一般的なものになってきているということだと思っています。

私どもの現在の申し込み状況を見ても、大企業さんはほとんどもう導入されていますけれども、本当に、例えばローカルの不動産会社さんであるとか、そういった全国規模ではないような地元の中小企業といったところまで、電子契約が一般的になり始めている。こういったことが原因だと思っています。

[Q]：ありがとうございます。トラスト・ログインはいかがでしょうか。

青山 [A]：はい。トラスト・ログインは引き続き、中堅以上が主にお申し込みのいただいている企業様の規模になります。

[Q]：これはクロスセルみたいなものも効いているんですかね。そんなことはないのでしょうか。

青山 [A]：ClowdCREW に関して言うと、GMO インターネットグループの企業からの紹介というのが増えてきています。加えて、私ども AWS のパートナーのランクが上がってきていますので、AWS 様からの紹介というのも増えているといったことが影響しています。

それから、それ以外の商材に関して言うと、内部での紹介というのはまだあまりできておりませんので、この辺は第 2 クォーター以降で現在、足元、そういったその辺の強化を仕掛けていくところでもあります。

[Q]：ありがとうございます。長くなって、最後に 1 点だけすみません。この今回の旧 株式会社ストラテジットさんとのグループジョインですね、これの業績貢献とか、またはその KPI、御社にシナジーが出てくる時期って、今のところどのくらいで想定されていますでしょうか。

青山 [M]：そうですね。旧 株式会社ストラテジット、GMO AI コネクト株式会社の件につきましては、担当している役員の武信浩史がおりますので、武信から説明させていただきます。

武信 [A]：初めまして武信と申しますよろしくお願いいたします。

旧株式会社ストラテジット、GMO AI コネクト株式会社の今後の貢献見通しですが、現状では、27年に単月黒字化を今、目指しております、進めております。直近の数字に関しましては、赤字幅は軽微なものになりますので、全体への影響は軽微といったところです。以上でございます。

[Q]：要はクロスセルで単月黒字化すると。それが大体今から1~2年後なんで見守ってくださいということなんですかね。

武信 [A]：はい。まずグループ内のシナジーから今、直近進めておりました。先ほど青山のほうからもありました、内部のクロスセルがまだ弱い部分があるというところに関しても、このGMO AI コネクト株式会社が入ることによって、生成AIとMCPを中心に、各サービスがつながる構造になりますので、そういったエコシステム的な構造が生まれると考えております。

それによって、大きなクロスセル効果が出てくると考えて進めております。

[M]：ありがとうございました。以上です。ありがとうございます。

武信 [M]：ありがとうございます。

司会 [M]：

以上をもちまして、決算説明会を終了させていただきます。

本日はご参加いただき、ありがとうございました。

青山 [M]：ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、株式会社JPX 総研（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。